

# 石巻専修大学

http://www.isenshu-u.ac.jp

代表電話番号  
**0225 (22) 7711**  
広報専用FAX  
**0225 (22) 7809**

## 本番に向けて準備万全

11月に入り、3年次生を対象にした進路・就職活動を支援する「進路ガイダンス」が熱気を帯びてきた。今までは、職業観育成や自己分析を深める講座から始まり、就職活動の全体像を理解させる講座、業界・企業・職種の研究方法の講座など段階を踏んで開講してきた。後期に入り、より実践的な講座も増え、3年次生は進路に向け、準備万全。

## 3年次生対象「進路ガイダンス」 情報収集にも熱



先輩の体験談に耳を傾ける3年次生たち(先輩たちの就職活動体験談)

11月13日は美社会で活躍している本学卒業生を「業界・企業・職種研究」をテーマに招いての「業界・企業・職種研究」を開催。

学生時代に学んだ知識や卒業研究・ゼミナールでの経験が今の職業にどのよう役立っているのかなど、具体的に説明した。あわせて、現在の業務内容の紹介。当日は36人が18ブースに分かれて、それぞれ個人面談形式で3年次生の



▲ 実社会で活躍している本学卒業生が「生」の情報を提供した(業界・企業・職種研究)



▲ 熱演するSWOの団員  
▼ 名曲の数々を演奏

## 熱演で聴衆を魅了

### SWO 第17回定期コンサート

県内各地でのコンサートより、ひと足早いクリスマスや学校・福祉施設などマスの雰囲気になり、演奏活動を行っているSWOの団員が、名曲に聴き入っていた。ド・オーケストラ(SWO)吹奏楽研究会・田代渉代表・経営3)は12月7日、石巻文化センターで第17回定期演奏会を開催した。毎年の恒例行事として開催していることから、常連の方や子供連れの家族の姿が多く、会場は満員となった。聴衆は色鮮やかな照明に彩られたステージの幻想的な演出に包まれ大成功だった。

## 「平成20年度税制改正の焦点」

### 企業経営セミナー開く

石巻専修大学大学開放センターの主催で、企業経営セミナー「平成20年度税制改正の焦点」が11月22日、本学で開かれた。これは本学と石巻信用金庫によるISプロジェクトの一環として行われた。



▲ e-Taxについて講習する川村講師

野知子准教授と理工学部センターの主催で、企業経営セミナー「平成20年度税制改正の焦点」が11月22日、本学で開かれた。第1部では、平

成20年度の税制改正において最も注目される公益法人税制の改革や21年度改正予定の中小企業事業承継税制を中心として、雇用の確保や地域の経済活動維持のために重要な改正項目に焦点を当て、新制度を解説するとともに、中小企業経営について税制面から検討した。第2部ではe-Tax(電子申告)の講習についてコンピューターを使用して理解を深めた。

## 地域再生へ活発な討議

### 産学官交流大会

本学や石巻商工会議所などの主催で、地域活性化について考える「石巻地域産学官交流大会」が11月25日、石巻市の石巻



▲ パネル討論で意見交換

出するかなどを話し合った。大会には約200人が参加。内閣官房地域活性化統合事務局の木村俊昭企画官より「地域再生に

野知子准教授と理工学部の川村暁講師。

セミナーは2部構成で開かれ、第1部では、平成20年度税制改正の焦点について解説するとともに、中小企業経営について税制面から検討した。第2部ではe-Tax(電子申告)の講習についてコンピューターを使用して理解を深めた。

## 2准教授が各賞受賞

### 石田記念財団 奨励賞に益満准教授

益満環経営学部准教授が、石田(實)記念財団の平成20年度奨励賞を受賞した。同賞は毎年宮城県内で、情報通信産業の進歩、発展に貢献・寄与する研究者に認められた大学研究者に贈られているもの。受賞の対象となったのは「RFIDを用いた牡蠣トレーサビリティ・システムの開発に関する研究」で、その研究成果が高く評価された。



同賞は3年以上所属している学会員の、流通に関する優秀な著書を選んでいる。

## 李准教授は日本流通学会賞

李東勲経営学部准教授が10月25日、第12回日本流通学会賞(日本流通学会)を受賞した。同賞は、経営者の高齢化や後継者難が主因で事業所数が激減している日本の小零細小売業が活路を見いだすには、経営目的を明確化することと指摘。まちづくり法やフランスの総合支援策を事例に政策提言を行っている。

## 構内の池で生物調査 サケ、ライギョが生息

理工学部生物生産工学科の大越健嗣教授の研究室では、季節ごとに本学構内の沈砂池で生物の生息調査を行っている。11月20日にも調査を行ったが、全長70センチ以上もあるサケやライギョをはじめ多数の生物を発見した。周辺に住宅地がある環境で、サケが見られる大学は外国を含めても非常に珍しい。調査中に入網した魚などは写真撮影と計測を終えた後にすぐ放流して、生息調査に適した環境となっている。河口近くの海水と淡水が混ざる環境に立地している本学周辺では、さまざまな水棲生物はもちろん、秋から冬にかけてはガンやハクチョウが上空を舞い、キツネやタヌキも時折姿を見せるなど、まさに自然の宝庫となっている。



▲ 体長70センチ以上のサケを発見